

## 共 同 研 究

### 高校新入学生徒を通じてみた 中学校教科教育の問題点

#### I ま え が き

この研究は本年度当校に入学した生徒がどのような学力をもっているか、中学校の教科学習に対してどのような点を問題として感じているか、又教科内容及び指導方法について何を望んでいるかなどを調査して、現在の中学校教科教育の実情を知り、その反省と改善の資料にするためのものである。

当校では本年度入学者の選抜に当って、普通課程の高等学校の教育に堪えうるものはすべて入学させるというたてまえをとった。そこでこの目的に応ずるように作製された進学適性検査により、志願者1,920名のうち約20%の不適格者を除き、残余のものの中から110名の合格者を選んだ。この場合外部の中学出身者は抽選で、附属中学出身者は継続研究の必要上抽選を適用しないで、選抜した。こゝで調査対象としたのはこのうち外部の中学出身者60名(男38名、女22名)である。

この被調査者は、市内32の中学校の出身者であって、その母集団である受験者層には附属高校入学希望者ということのために、多少の偏りはまぬがれないだろうが、一応普通課程高校進学者を代表する標本と考えても大差ないであろう。しかし現在の中学校教育について、一般的な推論を進めるためには普通課程高校進学者だけでなく職業課程高校進学者や就職者にたいする調査をあわせ実施してその結果を総合するのではなければ十分とはいえないだろう。この研究では実施上の制限もあって当校入学者のみを調査対象としてえらばざるを得なかった。しかしこの調査で中学校教育の現状のすべてをとらえることはできなくても、その問題点の一部をうかがい知ることにはできるであろう。

われわれが用いた進学適性検査は、中学校の学習指導要領や教科書を検討した結果、中学校教育を修了したものが習得していなければならない最低の知識技能を測定しようという問題によって構成された。その際われわれは検査問題の困難度について、正答率の平均が80%位になるようなところに目安をおいた。とくに教科の区別を厳重にしたわけではないが、出題の範囲は中学校の全教科にわたっている。検査が客観テストの形式をとったこと、従ってその検査しうる内容に一定の制約があることはいうまでもない。

中学校教育にたいする回想の調査は、卒業直後であるよりもある期間を置いた後の方が過去に対する客観的な判断を下しやすいという有利さがある。しかしその反面では記憶がうすれて誤りが混入しやすいし、現在の生活経験との関連において再生内容に偏りを生じたりする傾向がある。以上の制約を認めるとしても、高校生活の経験にもとづいた中学校教科学習の回想の調査はその教育上の問題点を知る手がかりとして、なお十分利用されるべきものと考えられる。

調査はつぎの手続きで進められた。

まず当校新入生が入学後感じている教科学習上の問題点のありかをたしかめるため、7月2日自由記述法によって予備調査を実施した。質問はつぎのような項目にわたって全教科についてなされた。

中学校時代の教科の学習をふりかえてみて、よかったことや悪かったことなどを具体的につぎの各相当欄に記入しなさい。

- (イ)高校に入ってから、中学校で学習してあったために、とてもありがたく思ったこと。
- (ロ)高校に入ってから考えて、中学校でやったけれども、ほとんど効果がなかったこと。

い高校に入ってから学習してなくて困ったこと  
(中学校でやってほしかったこと)。

この予備調査の結果にもとづいて、末尾に示すような本調査の質問紙がつけられた。本調査のねらいは、(1)各教科の学習内容をどの程度まで学習したか、(2)各教科の学習内容や指導方法をどのような態度で受けとっているか、の二点に集約される。

われわれはつきに以上の諸調査の結果を総合して現在中学校教科教育のもっている問題の一端を明らかにし、これに検討を加えることとする。

この研究は当校の全教官の共同研究であって、各教科担当の教官がそれぞれの教科について分析検討したものを、研究部でまとめたものである。

## Ⅱ 本 論

### 1. 各教科の授業時間数

各教科の3年当時の、毎週授業時間数は表1のように大体各校とも一致しているが、国語・数学・英語で各6時間、音楽・図工・職業・家庭で各1時間以下と報告しているもののあるのが注目される。

表 1 各教科の授業時間数 (実数)

出身学校別 時間数	外 部							附 中					
	0	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
国				2	27	25	4				16	26	
社				2	35	20					17	25	
数				1	18	36	2			1	27	13	1
理				4	40	13				1	17	24	1
音		5	51	2					41				
図		4	54						42				
保 体		4	20	33	1				2	39			
職 家	1	3	32	21					41	1			
英					17	37	5				1	36	3

る。ただし比較のために掲げた附属中学出身者の応答でみると(下線をつけてあるのが正答)、同一の時間数で学んできているのにかなりの誤差がみられる。これは記憶や判断のあやまりによるものであろう。従って附属中学以外の出身者の応答

にもこのような誤が含まれていると考えられるが、大体の傾向をとらえることはできると思う。

### 2. 補習授業と実力試験

高校への進学指導を目的として市内の大部分の中学校が多かれ少なかれ補習授業や実力試験をやっていることは昨年の調査でも明らかである(註し、その後大学区制がとられるようになって、この傾向を一層強めたことも容易に想像できる。この調査によってもほとんど全員がその経験をもっていることがわかる。そこで補習授業や実力試験のやり方はともかくとして、それを生徒がどう受けとっているかをたしかめてみると、表2のようであった。補習授業や実力試験は国語・社会・数学・理科・英語に重点を置いている学校が多いので、これら5教科で役立ったとする応答の多いのは当然であろうが、「わからない」とするものが案外多く、さらに「役立たない」とするものすらある。不明の、あるいは否定的な応答をしたものについて、その理由を追及することはここではできないが、実施の当事者としては大いに注目すべき問題であろう。

### 3. 国 語

国語の授業時数は1週4~5時間が多く、文法についてはこの時間内において実施してあり、特に文法の時間を設けて実施しているものは約3/5である。進学適性検査の文法の問題の結果は、それに関係なく、正答率がかなりの高さを示している。

漢字書取の指導には十分時間をかけているようであるが、入学後数回のテストの結果によれば、誤答がかなり多く、しかも比較的多く用いられる漢字に誤りが多いのを見ると、その指導の効果がやゝ疑われる。

文学作品の鑑賞指導については一番問題が多い。在学中小説・詩歌・映画・演劇等の鑑賞と、その指導には十分時間をかけていないようになって、文学作品の鑑賞を積極的にするためその意欲を育て、鑑賞力を伸ばし、また創意性をそだてる

高校新入学生徒を通じてみた中学校教科教育の問題点

表 2 (%)

	補 習 授 業				実 力 試 験				
	役 立 っ た	わ か ら ない	役 立 っ た	記 入 し	役 立 っ た	わ か ら ない	役 立 っ た	実 施 し ない	記 入 し
国 語	33.9	40.7	18.6	6.8	32.2	49.2	3.4	0	15.2
社 会	32.2	47.4	13.6	6.8	23.7	57.7	3.4	0	15.2
数 学	42.3	37.3	13.6	6.8	28.8	50.9	5.1	0	15.2
理 科	45.7	35.6	11.9	6.8	22.0	56.0	6.8	0	15.2
音 楽	17.0	57.6	18.6	6.8	15.2	52.5	1.9	15.2	15.2
図画・工作	10.2	57.6	25.4	6.8	10.2	54.3	5.1	15.2	15.2
保健体育	15.2	61.0	17.0	6.8	8.5	59.2	1.9	15.2	15.2
職業家庭	10.2	69.4	13.6	6.8	10.2	50.8	8.5	15.2	15.2
英 語	32.2	49.1	11.9	6.8	25.5	55.9	3.4	0	15.2

表 3 (%)

教 科 学 習 内 容	よ く や っ た	少 し や っ た	や ら ない
	(教 えて くれ た)		
単 語 の 知 識	27.0	52.3	20.7
教 育 漢 字 の 書 取	61.1	28.7	10.2
当 用 漢 字 の 読 み 書 き	40.5	41.1	18.4
文 章 の 要 約	37.2	47.9	14.9
書 物 を 多 く 読 む	16.9	59.0	24.1
小 説 ・ 詩 歌 の 鑑 賞	11.3	64.2	24.5
作 詩 ・ 作 歌			
文 章 を 作 る こ と	20.4	67.0	12.6
話 す 力 ・ 朗 読	16.9	54.2	28.9
発 表			
演 劇 ・ 映 画 の 鑑 賞	16.9	54.2	28.9
文 法	35.8	57.3	6.9
種 々 の テ ス ト	54.2	39.0	6.8

表 4 (%)

社 会 科 学 習 内 容	よ く や っ た	少 し や っ た	や ら ない
日 本 史 (古 代 ~ 近 世)	84.3	11.6	1.7
日 本 史 (現 代)	49.4	35.3	15.3
世 界 史		18.5	76.8
中 国 の 歴 史		5.1	91.0
日 本 地 理	50.9	45.5	3.4
世 界 地 理	25.4	59.2	15.3
世 界 の 結 び つ き (経 済 貿 易)	40.5	45.7	11.9
日 本 国 憲 法	59.2	33.8	6.7
日 本 の 政 治	73.1	27.0	
経 済	57.4	37.3	5.1
国 際 平 和	57.4	39.0	3.4
郷 土 史	1.7	27.0	71.1
時 事 問 題	11.9	39.0	47.2
見 学	3.4	15.3	80.2

ことには十分でなく、本校の進学適性検査の中の詩の鑑賞の問題についても、その正答率はかなり低く、国語問題中最低の成績となっている。

4. 社 会

表4についてみると、日本史は古代から近世までは大多数がよく学んでいるが、現代史になると

「少しやっている」・「やらぬ」の両者で過半数を占めている。進学適性検査の正答率をみると「紡績工業の近代化の時期」・「労働問題の発生—女工哀史」について、それぞれ57%、50%と他の

問題に比してかなり低くなっており、現代史の学習が十分でなかったことを立証している。

世界史は教科課程の中でまとまって学習するようにはなっていないが、日本史の間に織り込まれているほか地理・政治・経済・社会などの各所で関連的に取扱うようになっているはずである。しか

表 5 (%)

世界史の学習方法		
世界史をまとめて1~2学期やった		3.1
日本史を学んでいる間にとどききはさんで世界史を学んだ		23.4
政治・経済・文化などのそれぞれのところで世界史を学んだ		7.8
世界史についてはとどきふれた程度		12.5
世界史はほとんどやらなかった		40.7
その他		3.1
無記入		9.4

し表5で世界史はほとんどやらないとするものが40%以上あることは問題である。表4でみると、学習しないとするものがさらに多く、77%となっている。生徒の判断に多少の誤差はあろうが、少なくとも「口、日本史の間にはさんで学ぶ」とか「ハ、政治・経済・文化などの間にはさんで学ぶ」と答えるものがもう少し多くていゝはずである。進学適性検査の問題で「ペルリ来航の国際的意義」について正答率29%と極めて低いのも、これを裏書きしているようである。

地理的学習については大体やっているようであるが、外国地理で欧・米・亜以外にほとんどやっていないものが少数(3名)ながらあったことは問題である。

表 6 (%)

国際平和の学習時期		
学習した	2年で	1.8
	3年で	66.0
学習しない		17.9
無記入		14.3

国際平和については、表4、および表6でも明らかなように、ほとんど3年で学習しているし、歴史的にも取上げられているものが多い。

社会科学学習の中で郷土誌や時事問題をどの程度に取扱っているかを表4によってみると、両方ともあまりよくやられていないようで、ことに郷土

誌の方が甚だしく「よくやった」と答えたものは1校だけであった。このことは中学校で社会科学教育を教科書の理解習得に限定してしまつて、広く生徒の生活経験に結びつけていこうとする関心や努力が欠けていることを示唆するものではなからうか。

見学の教育的効果は一般に認められているところであるが、これも実施しているところが意外に少ない。現在の中学校には見学を困難にする種々の事情も

あろうと考えられるが、いろいろと工夫して機会をつくりもっと多く実施すべきであると考えられる。

## 5. 数 学

学習内容については、この調査では特記することはない。

数学の力がついたと思われる学習の場・方法・教材・その他についてみると、表7の通りである。生徒が「授業」や「自分で勉強して」効果を

表 7 数学の力がついたと思うもの(実数)

	最も多いもの	中位	ほとんど関係なし
授 業	22	22	0
補 習	2	16	11
宿 題	12	15	7
教 科 書	11	24	1
参 考 書, 問 題 集	20	19	4
自分で勉強して	17	14	1
先生や友人に聞いて	7	19	5
家 庭 教 師	1	3	15
塾	1	6	17
学 期 試 験	9	21	7
毎 日 テ ス ト	7	7	16
外部学力コンクール	0	10	17

あげたと感ずるのは当然であろうが、とくに「参考書・問題集」が効果的であったとしていることは注目される。数学が耳や目を通してより、手を通して、即ち問題を解き得たという経験を通してより深く理解されるものであることを考えさせられると共に、教科書対参考書の間にまつわる各種の問題を提起しているといえよう。

「塾」や「家庭教師」、「外部の学力コンクール」については役立たぬとするものが割りに多く、これらの選定の指導に当っては特に注意が必要のようである（学力コンクールには力だめしという別の意味もあるだろう）。

つぎに「補習授業」については、これの効果が程度認められている一方、役立たぬとする者も多いので、そのやり方が問題となるだろう。

## 6. 理 科

中学校における実験の学習の実態について調べた結果を表8に示す。

表 8

実験と講義の比率 ( $\frac{\text{実験時数}}{\text{講義時数}}$ )	人 数 (60名)	%
$\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$	27	46.0
$\frac{1}{6} \sim \frac{1}{15}$	15	24.5
$\frac{1}{30} \sim 0$	18	29.5

この表で〔 $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$ 〕のものは大体1週1時間は実験をしてきた生徒であり、従って望ましいものが46%であると考えられる。

次の〔 $\frac{1}{6} \sim \frac{1}{15}$ 〕の生徒24.5%は実験学習の時間が明らかに不足であるといえよう。又〔 $\frac{1}{30} \sim 0$ 〕の29.5%は殆んど実験を行ってこなかったものと考えられ、特にこの中で注目されなければならないことは、全く実験しなかったと答えたものが8名もいることである。

表9は実験の内容を調べたものである。

表 9 (実数)

生徒実験が多かった	主として教師実験	実験なし
24	26	8

この表から明らかなように実験をしているものでも、そのうちの過半数は教師実験のみですましているが、これは決して望ましい学習状況とはいえないだろう。

これには施設・経費などの不足も多分に影響していると考えられるが、とにかく理科教育振興上大きな問題であると思う。

## 7. 音 楽

総合的にみて、よく指導が行われているようで喜ばしい。

ただし、週授業時数1時間のところが少数ながら散見されるのは、考えさせられる問題である。

表 10 (%)

	よくや った (教えてくれた)	少しや った	や ら な い
合 唱	61.0	3.9	5.1
斉 唱	44.0	40.6	11.8
楽 典	28.7	49.2	22.0
創 作	13.5	40.7	44.2
鑑 賞	35.4	37.2	18.6

「少しやった」は教科書だけ

しいて言えば、楽典などは比較的好くはなされているのに、鑑賞の指導はこれでは不十分と思われる。鑑賞には経費を要することもあってやむを得ない点もあろうが、今後もっと強化していきたい方面だと思う。

## 8. 図 工

描画ではいかなる指導がよく行われているか。全生徒に対して特によく注意されたことがらを自由に記入させ、それを整理してみた(表11)。

(ハ)「解答なし」が多いが、これは特に注意されたことがらでなかったもの、つまり全く自由に描いたもの、及び注意は受けたが忘れたものであろう。このことによし悪しはこゝでは判断出来ない。次に多いのは(イ)である。これは例えば「きれいな水を使う。」「鉛筆の線は強くかゝない。」「絵具を多量に使う。」などというものであり、こ

表 11 (%)

(イ) 技巧又は描画要領に関したことから	17.0
(ロ) 遠近感をよくあらわすということ	10.7
(ハ) よく見てかく	9.0
(ニ) みたまゝかく	9.0
(ホ) その他	18.5
(ヘ) 解答なし	35.8

れについて(ロ)(ハ)(ニ)が多いが、ものをかく前の注意、つまり、何をかくかということや、画面の構成に關した指導がもっと行われてもよいのではないかと思う。

工作で使ったことのある材料について (表12)

表 12 (%)

木 材	21.7
粘 土	21.7
紙	14.9
石 膏	11.8
竹	9.5
金 属	8.7
セメント	5.6
やきもの	4.0
石	1.0
解答なし	1.1

図工教育の中で、描画の偏重にもなう工作の軽視が叫ばれているが、この調査の結果を見れば、これ程多種の材料があまり偏りもせずに使われていることがわかり、これだけでも工作教育が理念的にも進歩しつつあると考える材料になると思う。問題はその方法や指導であるが、次の調査はそれをある程度知ろうとしたものである。

工作のやり方について (粘土工、版画をのぞく) (表13)

表 13 (%)

(イ) みなぎめられた同じものを同じ材料で作った。	23.0
(ロ) つくるものゝ種類と材料がきまっでいて、設計は各自思い思いに考えたものを作った。	42.0
(ハ) 作るものゝ種類はきまっていたが、材料も設計も自由に各自で考えた。	14.0
(ニ) 何でも自由に作りたいものを作った。	11.0
(ホ) 解答なし	10.0

(ロ)が多いことは、すぐれた教育が多く行われている証拠であろう。しかし(イ)がかなり多いことは考えなければならない。教材屋の商品にたよった安易な教育も行われているのではないだろうか。理想的には(イ)がもっとずっと少くなり、そのかわり

(ハ)が多くならなければならない。現状で(イ)が少ないのは材料の調達、指導、評価が困難なためであろう。大体(ロ)と(ハ)が主体となり、必要に応じて(イ)や(ニ)が加わるような比率になるべきだと思う。

図工科の授業時間数について

調査の結果、ほとんど全部の学校が、規定の最低時間である週2時間を保っているが、ごく少数の学校において、如何なる理由かこれを割っている(3学年に多い)のは問題とすべきことである。

### 9. 保健体育

保健の学習については表14のように時間割に組

表 14 (%)

週に1時間	72.8
雨天のときのみ	27.2

まれていないで雨天の時に起こなうというのが約30%もあることは考えさせられる。これでは

定められた単元の学習について計画的なカリキュラムによる学習が困難であるばかりでなく、保健の学習を体育実技よりも軽視するような考え方を生徒にもたせる懸念もある。

次に体育実技の調査で目立つことは表15で見ら

表 15 (%)

女子のダンスの学習状態	よくやった	少しやった	やらない
基 本	19.0	47.8	33.2
表 現	4.7	22.4	72.9
既 成 作 品	9.5	14.3	76.2
創 作	4.7	22.4	72.9
フ ォ ー ク ダ ンス	14.2	19.0	66.8

れるようにダンスの学習が低調なことである。やらないというのが各項約70%もあることは、施設と指導者の不足が特に問題にされなければならない点として今後に残される。

次に安全教育と体育の面から水泳の学習については表16のようでやっていないと答えたものが過半数あり、特に女子に多いことは問題である。施

表 16 (%)

水泳の学習状態		よくやった	少しやった	やらない
男	子	29.2	14.6	56.2
女	子	12.5	12.5	75.0

設、経費、指導者等多数の実施上の困難点をもっているのではあるが、この年令が水泳技能習得の最適期であることと考え合せ、今後一層努力されなければならない点であろう。

### 10. 職業家庭

表 17 (%)

教科学習内容	男			女			
	よくやった (教えてくれた)	少しやった	やらない	よくやった (教えてくれた)	少しやった	やらない	
職業論	栽培	5.3	34.2	60.5	4.3	30.4	65.3
	製図	28.9	63.2	7.9	4.3	52.2	43.5
	機械	7.9	39.5	52.6	0	17.4	82.6
	売買記帳	31.6	34.2	34.2	13.0	56.5	30.4
	食物	5.3	18.4	76.3	30.4	65.2	4.4
	被服	5.3	15.8	78.9	21.7	56.5	21.8
	住居	5.3	76.3	18.4	34.8	65.2	0
	家庭経営	10.5	39.5	50.0	8.7	56.5	34.8
	産業と職業	13.1	65.8	21.1	13.0	43.5	43.5
	職業と進路	13.1	65.8	21.1	13.0	43.5	43.5
家庭実習	職業生活	10.5	65.3	23.4	13.0	43.5	43.5
	栽培	2.6	7.9	89.5	4.3	4.3	91.4
	製図	31.5	52.6	15.9	0	8.7	91.3
	機械	7.9	26.3	65.8	0	4.3	95.7
	売買記帳	23.7	18.4	57.9	4.4	39.1	56.5
	食物	2.6	7.9	89.5	34.7	61.0	4.3
	被服	2.6	7.9	89.5	17.3	61.0	21.7
	住居	5.3	15.8	78.9	0	13.0	87.0
家庭経営	2.6	15.8	81.6	0	13.0	87.0	

表17の示しているように、男子は「やらない」

と答えているものが非常に多い。女子は割合によくやっているようである。しかし、男女共通の学習という立場から、学習内容を共通に学ぶことはある程度必要であると思われる。

学習の方法や重点のおき方に相違があることは当然で、家庭関係は女子に、職業関係は男子に比重が重くなると思われるが、被服、食物、栽培等は男子においても、もうすこし学習すべきではないかと思われる。

女子は栽培、産業と職業、職業と進路、職業生活等をもうすこし学習すべきではないかと思われる。

### 11. 英語

表1でみられるように英語の授業時間数は4~5時間が多いので、この点からみればかなり重視されているようであるが、選択制になっていることと高校入試に加えられていないことなどのために、案外指導が徹底していないのではなからうか。高校入学後そのために苦労していることは表18によって明らかである。生徒たちは高校入学後、「単語の力がない」「基礎がない」「文法の力がない」などと訴えているが、とくに単語の習得に苦心しているようである。これは中学校における英語教育の問題でもあるが、高校初期における重要な問題でもあるので、どのようにして興味深く単語を覚えさせるかを一考する必要がある。

英語の勉強で予習と復習とどちらに重点を置いてきたかをみると、表19のように予習に重点を置

表 18 高校に入学して英語の授業の中一番苦労している点 (%)

単語の力がない	36.6
基礎がない	12.7
文法の力がない	12.7
積極的にやれない	7.9
問題集がむつかしすぎる	3.1
暗記に苦労	3.1
訳すことができない	1.6
発音に苦労	1.6
前置詞の用法に苦労	1.6
余り苦心していない	1.6
無記入	17.5

表 19 (%)

勉強のしかた	
予習に重点をおく	78.2
復習に重点をおく	12.7
同じ位	9.1

表 20 (%)

予習復習の時間数	予 習	復 習
0 時間	6.3	35.4
0.5 時間	6.3	29.1
1 時間	45.7	22.8
1.5 時間	2.1	0
2 時間	35.4	8.5
2.5 時間	2.1	2.1
3 時間	2.1	0
不 定	0	2.1

くものが圧倒的に多くなっている。またその時間数をみると表20のように予習では1~2時間、復習では0.5~1時間をもっとも多い。この事は英語の教材が特に高校においてむつかしく、予習で手一杯になっている事を示すもので、語学における復習の重要性を考える時、指導上注意すべき事といわなければならない。

英語の時間にリーダー、文法、作文の区別があるかどうかをみると、大部分すなわち84%のものが区別がなかったとしている。英語学習の能率の上から考えると中学3年頃には作文、文法を加味して指導した方が徹底するのではないだろうか。

### Ⅲ む す び

はじめに述べたように、この研究では調査方法上いろいろな制約があったが、結果を整理してみると、解釈にあたってつぎのような考慮が必要であることがわかった。

(1)授業時間数の調査結果にみられたように、応答内容には記憶の誤りによるあいまいな要素が多

少混入していると思われること。

(2)「よくやった」「少しやった」などの程度を聞く質問では、生徒の主観的な判断による応答を期待しているのであるが、その場合でも表現があいまいなために生徒が応答に迷うという結果を生じたこと。

(3)中学校の教育に対して卒直な反省もあろうが、とくに骨の折れた学習については効果そのものより指導者からの圧力に対する反ばつを一層多く感ずるものもあり、そのために応答が否定的に傾く場合もあったこと。

以上のような方法上の不備を考慮するとしても、なおこの調査からつぎの諸点を教科教育上の問題点として指摘することが許されるであろう。

(1)補習授業や実力試験は大部分の学校で行われているようであるが、その効果を積極的に認めている生徒は割合少ないようである。

(2)国語では文法の指導はかなりゆきとゞいているようであるが、鑑賞指導がやゝ不十分のように思われる。指導に骨が折れてその割に効果がとらえにくいためになおざりにされがちなのではないだろうか。

(3)社会では政治的・経済的及び地理的内容については大体よく指導されているようであるが、現代史及び世界史の指導がやゝ不十分と思われる。いろいろな制約もあろうが、郷土誌の学習や見学の重要性がかえりみられていないようにみえることも一つの問題である。

(4)数学の学習内容についてはとくに記すべき事項はないが、参考書や問題集による勉強が効果があったとするものが多く、反面塾や家庭教師や学力コンクールなどの効果を認めるものが比較的少ないことは、数学指導上注目すべきことであろう。

(5)理科では実験指導の不徹底がとくに注目される。施設、経費等の不足によるとすれば、理科教育振興のためその充実への努力がとくに望まれるわけである。

(6)音楽では全般的によく指導されているようであるが、鑑賞指導だけはなお不十分のように思われる。



- (7) 図画工作では描画教育偏重の傾向が是正されて、工作教育が充実しつゝあるように見受けられる。しかしその指導法については、教材屋の商品にたよる安易なものが多いように思われるが、この点はやゝ問題である。
- (8) 保健体育では、とくに水泳及び女子のダンスの指導が不十分のようである。指導者・設備及び経費などの不足がその原因であろうが、体育指導上看過することのできない問題である。
- (9) 職業家庭科の学習では、履習した学習内容にかなり不均衡があるようである。もし指導者・設備などに原因があるとすれば、その方面の改善充実こそ緊急のことといわねばならない。
- (10) 英語の授業時間数は、中学では大部分が4ないし5時間であるが、それにもかゝらず高校入学後その学習に苦勞しているようである。中学校の指導が能率的でないためか、高校のカリキュラムの要求している程度が高すぎるのか、これだけの資料では判定できないが、いずれにしても一考を要する問題である。

これを総括してみると、一般的にはその指導がかなりゆきとゞいており、教師の努力でできる範囲内のもは少しずつ改善されつゝあるように思われる。しかし重要なことでありながら、指導に骨が折れて効果が判定し難い学習事項、例えば鑑

賞（文学や音楽の）や自由な題材による工作や理科実験や社会見学などが割合になおざりにされつつあることは、教科教育上とくに反省すべき点ではなかろうか。もしこれらの学習事項が高校の入学試験に関係が少ないためにそうだとしたら、高校側としてもその選抜法に考慮すべきものがあるだろう。

なお理科の実験指導とか保健体育のダンスや水泳の指導とか、あるいは職業家庭科の指導とかにみられた指導の不徹底が指導者や施設・設備の不足に起因するものであるとすれば、その方面の改善充実こそ肝要のことといわなければならない。

#### 本稿執筆者

天野菊三郎	石黒 鈺二	稲山 沢子
岩倉 一	織田長繁	加藤 剛
加藤 十八	金田トシ子	佐伯正一
新海 寛	鈴木洋一郎	丹下省吾
都築 亨	戸 莉 進	中尾正三
中根一芳	中野満男	丹羽義信
畑 実	原田秀雄	兵藤祚夫
福中康子	三橋一夫	渡辺貞夫

註 名古屋市内中学・高校における進学指導及び生徒指導の現状（名古屋大学教育学部附属中・高等学校校紀要、第1集）、1955年

共 同 研 究

1.1

調 査 問 題

男・女 出身学校 市内・市外 中学校 高 1 組 番氏名

下の表の空らんこに、左の教科に対して、数字あるいは○印を入れなさい。

教科	時間数 (一週当たり)	補 習 授 業					補習授業が役立つかどうか(○印)			教科書以外に使用したテキスト・問題集の冊数(学校で)	実 力 試 験 (○印)			
		1 週当りの時数			日 数		役立つ	不明	役立たない		一年の回数	役立つ	不明	役立たない
		1学期	2学期	3学期	夏休み	冬休み								
国														
社														
数														
理														
音														
図工														
保体														
職家														
英														

次の間に答えなさい。

- 国語の時間はどのように分けて勉強しましたか(例 文法1時間, 教科書4時間)。
- 世界史について、次のうちどのような方法で学びましたか。○をつけなさい。  
 イ 世界史をまとめて1~2学期間やった  
 ロ 日本史を学んでいる間にとどきき先生で世界史を学んだ  
 ハ 政治・経済・文化などのそれぞれのところで世界史を学んだ  
 ニ 世界史についてはとどききふれた程度  
 ホ 世界史はほとんどやらない  
 ヘ その他
- 地理的内容の学習でとばしたり、省略したところはありませんか。それはどこですか。
- 国際平和の単元で世界の人の戦争と平和への努力について歴史的に学習したことがありますか、それは何年生のときですか。
- 数学の力がほんといついたと思われるのは次のどれですか(最も多いもの○, 中位○, 殆ど関係なし×)。  
 { 授 業 }                                      { 教科書 }                                      { 自分で勉強した }                                      { 学期試験 }  
 { 補習授業 }                                      { 参考書・問題集 }                                      { 先生や友人に聞く }                                      { 毎日のテスト }  
 { 宿題を勉強して }                                      { 家庭教師 }                                      { 外部コンクール }  
 { 塾 }
- 理科の時間のうちで実験に使った時間数はおよそ全体の何分の一位ですか。( )
- 理科の実験は教師実験と生徒実験とどちらが多かったですか。○をつけなさい。  
 イ 教師実験が多い                                      ロ 生徒実験が多い                                      ハ 同じ位
- 音楽では歌唱は階名で練習しましたか。○印をつけなさい。(した 余りやらぬ)
- 楽典で次のことを習いましたか。習ったものに○印をつけなさい。

音 階	{ 1. 長音階 2. 短音階 3. 日本音階 }	音 程 <input type="checkbox"/> (例へば完全5度, 増4度)
		調 { b 2つまで <input type="checkbox"/> 3つまで <input type="checkbox"/> 4つまで <input type="checkbox"/> 5つまで <input type="checkbox"/> { #   " <input type="checkbox"/> " <input type="checkbox"/> " <input type="checkbox"/> " <input type="checkbox"/> }
		移調 <input type="checkbox"/> (他の調に同じ旋律をかき直すこと)



共 同 研 究

No. 2

男・女 出身学校 市内・市外 中学校 高1 組 番 氏名

問 中学校時代の各教科の学習をふりかえってみて、教科内容の学習の程度を各項目について記入しなさい。  
(該当欄に○印を書き入れよ)

教科学習内容		よくやっ た	少しやっ った	やら ない	教科学習内容		よくやっ た	少しやっ った	やら ない	教科学習内容		よくやっ た	少しやっ った	やら ない		
国 語	単語の知識				図 工	日本の絵画				職 業 論	裁製	培図				
	教育漢字の書取					日本の彫刻					機械	械帳				
	当用漢字の読み書き					西洋の絵画					売買記帳					
	文章の要約					西洋の彫刻					食物					
	書物を多く読む					昔の美術工芸品					被服					
	小説・詩歌の鑑賞					現代の美術工芸品					住居					
	作詩・作歌					現代の日常生活用品					家庭経営					
	文章を作ること					昔の建築物					産業と職業					
	話す力・朗読					現代の建築物					職業と進路					
	発表					商業美術					職業生活					
	演劇・映画の鑑賞										裁製	培図				
	文法					保 健	生理学関係					機械	械帳			
種々のテスト				医学関係					売買記帳							
				実習学					食物							
				球 技	見学					被服						
					バスケットボール					住居						
					ソフトボール					家庭経営						
					軟式野球					作文	文法					
					バレーボール					単語	語音					
					バドミントン					発会	話積					
					サッカー					英 語	解	釈				
					スピードボール								音 楽	創 作	歌 曲	
					ハンドボール					一部形式						
					トライボール				三部形式							
					タッチフットボール				三部形式							
					ラグビー				歌							
				陸 上 競 技	短距離走											
					中距離走											
					長距離走											
					リレー											
					走巾跳											
					走高跳											
					三段跳											
					砲丸投											
					巧 技	マットワーク										
						組立体操										
						跳箱										
					徒 手 操	鉄棒										
				縄とび												
				徒手体操												
				ダ ン ス	柔軟体操											
					基本現											
				既成作品												
				創作												
				フォークダンス												
				水 体	水泳											
					体育理論											
音 楽	合唱															
	音楽創鑑															

(少しやったは教科書だけ)